

「被災地内看護職との協働による避難所・仮設住宅・在宅における看護活動(宮城班)第一報」

2020年1月21日

佐々木 久美子 霜山 真

## 1. 活動の概要

活動日時:令和2年1月10日(金)8:20~16:00、1月11日(土) 8:40~13:40

活動場所:宮城県黒川郡大郷町(大郷町総合運動場仮設団地、みなし仮設住宅)

支援目的:仮設住宅入居者の健康調査の支援活動

活動メンバー:日本災害看護学会員 臼井千津、太田晴美、佐々木久美子、勝沼志保里、松永雄至、霜山真

大郷町保健福祉課保健師3名

塩釜保健所保健師3名

JISP(一般社団法人日本インターナショナル・サポート・プログラム)看護師3名

JISP職員3名(1月10日のみ)

活動日の状況:台風19号の被災後89~90日目(被災令和1年10月13日)

天気:曇りのち晴れ、気温(最高10.6℃/0.5℃)

## 2. 活動の実際

1月10日(金)

時間	活動の内容
8:20	大郷町役場保健福祉課課長、担当職員にあいさつ
8:40	大郷町総合運動場仮設団地集会所に自家用車で集合
9:00	健康調査従事スタッフ打ち合わせ 各自の訪問宅を確認し、活動準備を行う
9:30	健康調査開始 大郷町保健師1名が集会所で待機し、全体の統括を担当 太田、大郷町保健師1名、塩釜保健所保健師3名、JISP看護師3名が仮設団地を担当(徒歩で移動) 臼井、佐々木がみなし仮設住宅を担当(自家用車で移動) <b>【健康調査内容】</b> 各自の担当した世帯を訪問し、調査を行う 配布時在宅者:聴き取り調査を行い、その場で本人分を回収する 配布時不在者:棟番号、部屋番号を確認し、翌日、再訪問を行う <b>【健康調査項目】</b> 現在の体調、疾患の有無、現在の症状、こころの健康について、飲酒習慣の有無、身体を動かす機会の有無、困っていること、近所との交流などについて <b>【健康調査時の注意事項】</b> 町から健康調査の協力要請を受けて訪問した旨を伝え、所属と氏名を明らかにする

	住民が体調不良を訴える際には内容を確認し、保健師に情報共有する 基本的に傾聴することを心掛け、必要時には血圧計などを用いて、健康相談を行う
11:30	午前の部、健康調査終了 大郷町保健師に健康調査実施結果報告
12:50	健康調査開始
15:20	健康調査終了 大郷町保健師に健康調査実施結果報告 翌日の調査対象者の確認
16:00	終了

1月11日(土)

時間	活動の内容
8:20	臼井、佐々木が前日に訪問したみなし仮設住宅に行き、調査票を回収 昨日、不在者宅に行き、本日訪問することの了解を得た後、大郷町総合運動場仮設団地集会所に移動
8:40	大郷町総合運動場仮設団地集会所に各自家用車で集合
8:50	大郷町保健師との打ち合わせを開始 各自の訪問宅を確認し、活動準備を行う
9:20	健康調査開始 大郷町保健師1名が集会所で待機し、全体の統括を担当 大郷町保健師1名、臼井、勝沼、松永、霜山が仮設団地を担当(徒歩で移動) 佐々木がみなし仮設住宅を担当(自家用車で移動) <b>【健康調査内容】</b> 昨日の訪問で配布・回収できなかった世帯を再度訪問し、調査を行う 配布時在宅者:聴き取り調査を行い、その場で本人分を回収する 配布時不在者:調査票をポストインし、後日提出する <b>【健康調査項目】</b> 現在の体調、疾患の有無、現在の症状、こころの健康について、飲酒習慣の有無、身体を動かす機会の有無、困っていること、近所との交流などについて <b>【健康調査時の注意事項】</b> 町から健康調査の協力要請を受けて訪問した旨を伝え、所属と氏名を明らかにする 住民が体調不良を訴える際には内容を確認し、保健師に情報共有する 基本的に傾聴することを心掛け、必要時には血圧計などを用いて、健康相談を行う
11:30	健康調査終了 次回、2月24日(祝)活動内容について、保健師と打ち合わせを実施
11:45	参加者で反省会を実施
12:30	集会所内の後片付け・清掃を実施

12:50	被災者支援住民宅に自家用車で移動し、意見交換を行った 意見交換内容:被災時の状況、支援内容と今後の活動の示唆について また、住民の方から、2月24日(祝)活動時の協力者について情報をいただいた
14:00	道の駅おおさと駐車場に移動し、大郷町保健師への挨拶後、各自解散 終了

### 3. 課題・アセスメント

今回、大郷町総合運動場仮設団地およびみなし仮設住宅に入居中の住民を対象に、大郷町役場主催の健康調査活動に参加した。2日間を通して仮設住宅37戸を訪問し、全体の半数以上である住民58人の健康調査を終えることができた。なお、今回2日間とも不在だった方には、調査票等を封筒に入れポストに入れており、1月24日までに郵送等により役場窓口に提出予定であり、それをもって健康調査を終えることとなる。

今回のプロジェクトの主な活動目的は、大郷町が行う健康調査と一緒に実施することにより、被災者の健康および生活状況を把握し、健康課題を明らかにすることであった。調査結果は今後役場保健師が分析する予定であるが、調査中に被災者は「これまでも水害はあったが、70歳を過ぎた今、今後の生活を考えると不安がある。」「被災した場所に戻ることにに対して家族の意見が違う。そのためか夜も眠れない日が続いている」「この年(70歳後半)でこのような状況に置かれるのは想定外だった」と涙を流し話していた。元気に振舞いながらも感情失禁もあり、被災体験や気持ちを整理する機会を設けるなどの心のケアが必要と考えられる。また、家族の中で要介護者がおり、仮設住宅では暮らせず、これまでデイサービス、ショートステイを利用して介護してきたが、今は他市の老健施設に入所せざるを得ない状況に置かれ、経済的な問題も波及してきている。

一方で、訪問した一部の仮設住宅では、固定電話の設置、携帯電話の契約ができていない状況であった。被災者からは「被災前に老人会で活動していたが、災害により活動がなくなり交流や趣味活動に参加できる機会がない」「談話室でイベントがあれば参加したいと思っている」との声が聴かれており、被災者は人との交流の機会や場がなくなっており、交流の機会を必要としていた。被災者にとって、仮設住宅に入居することにより、被災前に比べて、社会参加や趣味活動、身体活動の機会が少ない状況であるため、ストレス発散などの機会や場が必要と考えられた。

日本災害看護学会として、大郷町保健師、関係者とともに被災住民への支援を考えた時、今できることは被災住民同士の交流や心の持ちようを改めて考える機会を作ることではないかと考える。次回、2月24日には本学会が主催し、住民の力を借りた餅つき、そして臨床スピリチュアルケアワーカーによる心のケアを行いたいと考える。

### 4. 活動写真



